

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	柴田 祥彦	学校名	東京都立 国分寺 高等学校
担当教科等	地理B	対象学年 (人数)	1 年 5組 (40名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2021年7月～2022年3月 (合計3時間)		

【実践概要】

<p>1. 実践する教科・領域： 地理総合 (地理Bの授業を活用して先行実施)</p> <p>A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 (1) 地図や地理情報システムと現代世界</p> <p>C 持続可能な地域づくりと私たち (1) 自然環境と防災 (2) 生活圏の調査と地域の展望</p>				
<p>2. 単元(活動)名：自然環境と防災 被災地のこれからの土地利用をどうすべきか</p>				
<p>3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標</p> <p>授業テーマ：「被災地のこれからの土地利用をどうすべきか」</p> <p>単元目標：GISを活用して被災地の地形を理解し、被災後の土地利用についてグループ活動を通じて多面的・多角的に考察する。また、低頻度大災害に対してどのような対策をとるべきかを考察する。</p> <p>関連する学習指導要領上の目標：地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現すること。</p>				
4. 単元の評価 規 準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸平野の地形的な特徴を理解している ・GIS：地理院地図を活用し必要な情報を得ることができる 		
	②思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地の土地利用を多面的・多角的に考察できる ・上記の内容をグループで話し合い、発表したり、文書でまとめることができる 		
	③学びに向かう力、 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・荒浜地区の今後の土地利用を他地域や過去の事例などを踏まえて多面的・多角的な (複数の視点から) 視点から考察できる。 		
5. 単元設定の 理由・単元の 意義 (児童/生徒 観、教材観、 指導観)	<p>【単元設定の理由】東京に暮らす高校生にとって東日本大震災は遠い地域で起こった過去のものであるが、まだ復興が進んでいない地域があることに気付いてほしいため。また、変動帯に位置する日本にとって低頻度大災害への備えをどうすべきか、将来の有権者として考えさせたいため。</p> <p>【単元の意義】地理総合の三本柱のうちの「GIS」と「防災」の二つを取り扱っているのは、地理総合の先行実施事例として極めて適切であると考え。</p> <p>【児童/生徒観】真面目な生徒たちであるが、参観者の多い研究授業でいつも通りの発言ができるのかが心配である。</p> <p>【指導観】比較的ノリが良いが、正解のない問題について考えることを面倒がる生徒もいるため、そのような生徒たちを以下に授業に巻き込んでいくかが課題である。</p>			
6. 単元計画 (全 3 時間)				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 一学期 末に実 施	海岸平野	海岸平野の地形的特色を把握する	海岸平野の形成要因、その分布を理解し、そこで起きうる災害について考察する。	教員が黒板に地理院地図を投影する。

2 本時	津波被災後の土地利用を考える	荒浜地区の今後土地利用をグループで話し合い発表する	津波被災後「災害危険区域」に指定された荒浜地区の土地利用についてグループで話し合った結果を発表し、そのアイデアをクラスで共有する。	教員が黒板に地理院地図を投影する。
3 三学期末に実施	低頻度大災害への備え	変動帯に位置する私たちの国は低頻度大災害にどう対応すべきなのか。	巨大津波、巨大噴火などの低頻度大災害に人口が減少し税収も少なくなっている私たちの国はどのように向き合っていくべきなのかをグループで話し合い、発表する。	数万年前の火砕流噴火等は知らないので、適宜資料を提示する。

7. 本時の展開（2時間目）

本時のねらい：グループでの話し合いや他のグループの発表を聞くことを通じて、自分一人で考えただけでは浮かばなかったアイデアや考え、そして多様な見方や意見があることに気づかせる。

ICT（本時は地理院地図）を活用することで様々な情報を得ることができることを実感させる。

災害の発生は一瞬だが、その被害はとても長引くことに気づかせる。



当日配布資料はこの書類の最後にペーストしました。

荒浜地区の地理院地図 右のQRコード

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (10分)	GIS:地理院地図を利用して、荒浜地区の地形と津波被害について確認する。 1年5組はActivityの授業が初めてなので、誕生日順に並ばせてグループ分けを行う。		教員がICTを操作し大画面に提示する。 5人グループを8グループ
展開 (37分)	グループで荒浜地区の土地利用のアイデアを話し合う。(25分) アイデアが固まったグループはそのキーワードを一語のみ板書する。 各グループ最大2分程度でアイデアを発表し、それについて教員と短時間議論する(12分)	適宜グループを回りファシリテートする	
まとめ (3分)	学んだ内容などをFormsもしくはふりかえりシートに記入する。	スマートフォンがない生徒はふりかえりシートに記入する	Forms、ふりかえりシート

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

・思考力、判断力、表現力等 GIS:地理院地図等を活用して地域の地形的な特徴を把握し、被災後の土地利用を複数の(多面的・多角的な)視点から考察し、他者と話し合いながら協同してより良い考えにまとめ上げることができるか。

<ul style="list-style-type: none"> ・学びに向かう力、人間性等 他地域や過去の事例などを複数の（多面的・多角的な）視点から考察することができているか。
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、東京都教育委員会学習評価の在り方検討委員会（地理歴史科）で地理総合の評価事例モデルとして取り上げら、授業時には指導主事が来校し、分析のため授業をビデオで撮影した。 ・また本授業は、東京都地理教育研究会の授業研究としても公開したため、当日は都立高校地理教員や一橋大学の教員、文部科学省教科書調査官（地理）など 15 名が見学し、その後の研究協議会でも活発な議論が交わされた。 ・本授業は東京都地理教育研究会の機関誌「都地研会報」（2022 年 2 月末刊行予定）にもまとめられ、全都立高地理教員で共有される予定である。
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都教育委員会学習評価の在り方検討委員会（地理歴史科）での評価（学びに向かう力、人間性等）事例として、本時内容が扱われ、この教材や評価方法・事例が全都立高校で共有されることになっている。 ・12 月 8 日（水）G 空間 Expo2021 「地理総合スタート！～G 空間技術で楽しく学ぶ地理・地形・歴史～」に登壇し、本授業の試行実践（11 月 29 日に実施）を報告した。 <p>全体の概要 https://maps.gsi.go.jp/pn/ 発表資料 https://maps.gsi.go.jp/pn/meeting_partners/data/20211208/5_kokubunji.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022 年 8 月に開催予定の全国地理教育研究会の全国大会で本実践事例を報告予定。 ・Facebook 内の「ICT でシェアする地理教材研究会」で共有した。また、「地理教材共有サイト」においても公開する予定である。

【自己評価】

11. 苦勞した点	荒浜地区は実際にはすでに土地利用が決定し、フルーツパークなどが完成しているため、その「事実」を隠してどのように生徒たちに考えさせるのかの仕掛けを考えるのに苦勞した。
12. 改善点	自由に考えさせ、基本的に生徒たちのアイデアに厳しいツッコミを入れなかったが、2 コマ確保し、例えば在日米軍基地にするというアイデアに対して教員の目線から現実的な厳しいツッコミを入れ、それについて再度グループで考えさせると思考が深化すると考えた。
13. 成果が出た点	このクラスはグループワークが初めてであったが、自由な発想を引き出すことができたのは良かった。
14. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラマや特撮ヒーローなどの撮影のセットを作る。そこで、撮影ができるのでそこからお金が入ると思う。また、撮影見学や体験などを開催すれば観光客も訪れる。さらにそこはドラマなどの聖地となるので今流行している聖地巡礼に訪れる観光客も増え、そこで関連したグッズを売ればそこでもお金が儲かる。 ・空港などもあり、仙台から近いけど騒音問題が無いことからドームとかアリーナみたいなライブもスポーツの試合もできるような施設をつくる。 ・自分では思いつかないような面白い案が多く楽しかったです。最後に先生と代表者が話して意見を深めるやり方が周りの人にも意見がわかりやすくなってとても良いと思いました。 ・難しい課題だったけど自分では想像できないような案が沢山出て楽しかったです。全部の班が発表し終わった後にもう一度考えてみたいと思いました。

15. 授業者による 自由記述	・荒浜で受けた自分の衝撃を授業化することができたのは良かった。とはいえ、本当に考えさせたかったのは、縮小社会を迎えた日本が低頻度大災害に対してどのように備えれば良いのかを考えさせたいと考えている。
--------------------	--

GEOGRAPHY SPECIALPRINT 「荒浜地区の復興計画」

地理B教科書 P. 41, 42 (海岸の地形) , P. 81 (防災・減災と復興への取り組み)

「被害を軽減するためには、災害を教訓として都市計画などに生かす必要がある。」

P. 326～329 (日本の抱える課題の追究)

最新地理図表 GEO P. 48, 49 (火山・地震による災害) , P. 52, 53 (防災から減災へ)

【本日のテーマ】

東日本大震災で津波の被害を受けた宮城県仙台市荒浜地区は、同程度の津波が発生した場合の安全確保が難しいなどの理由から、一般の住宅やホテルなどの宿泊施設を建設することができない「災害危険区域」に指定されました。あなたは荒浜地区の住民だった高校生として、今後の荒浜地区をどのように開発・復興していけば良いと考えますか？

【課題1 観点別評価対象】

あなたは荒浜地区で暮らしていた高校生として、今後ふるさとをどのように開発・復興させていけば良いと考えますか？ **複数の視点・観点から考察して**書いてください。

スマホを持っている人は以下のQRコードのリンク先のFormsに**本日**
昼休み終了時までに記入してください。その場合このプリントの提出は
不要です。スマホがない方は以下に記入し、昼休みまでにHR委員を通じて柴田まで提出してください。



【課題2 観点別評価対象外】 今日授業の感想を自由に書いてください。

1年 5組 番 氏名